

— CMB運営4つの小学校・将来計画 —

11月半ばの現地報告に、CMBが運営する4つの小学校の将来計画がありました。予想外だったのは、本校であるボルール小学校の政府移管計画です。また教育文化体育省（文部省）と交渉中の段階であるが、すでにこの地域は住民の教育への意識が高く、また、州都マーベルに比較的近いため現金収入の機会もあり、ある程度経済的自立見通しがついたとの理由によるものです。ラムアプスについても同様の政府移管計画が進んでいます。

フィリピン政府は1992年に「万人のための教育行動計画」を採択、「中期開発計画（1993-98）」では、学校のない僻地の村落に少なくとも8,000校の初等学校新設予定となっています。

条件の整ったところから政府移管がCMBの支援方針である点すでに触れましたが、ボルール校は、前号でご紹介した矢野さんのご寄付と新潟ふれあい基金助成で大掛かりな屋根補修を開始したばかりです。この点については、政府が校舎を建てるまでボルール校舎を公立ボルール小学校に貸与、その後ボルール校は、ピラーンのためのハイスクールと技術専門学校としてCMB運営に戻すという計画との説明がありました。一方、サムラングとアトゥモロックは、今後もCMBが重点的に支援する地域とされ、特にアトゥモロックは、ボルールに代わるCMB運営の小学校の本校として校舎増築計画があります。会員のご寄付10万円（6月にいただいた分）がこれに当てられる予定です。ありがとうございました。CMBの学校新設は、ラムブソン・コミュニティー（バンガ町）で、資金が足りない場合、コゴングラスと竹製の教室から始めることで住民と話し合いがつかっているそうです。

公立の教師になれば格段に高い給与が約束されますが、CMBが新設予定の山の学校赴任を志願する教師も何人かいるとか、心強い限りです。



ボルール小学校の教師

マリオ・プラ (32)
リバス・インバング (28)
スサン・アミゴ (31)
プランダ・プラ (38)
パトリシオ・アタム (41)
*テルマ・サラビ

アトゥモロックの教師

*エレナ・デアロテイング
エルリダ・カバナル (36)
レスリ・ダソコ (27)
*アントニオ・ダソコ

サムラングとラムアプスの教師

ロバート・アラム (22) サムラング
マリオ・クラテ・イオ (32) ラムアプス

写真左から
() は年齢

*印は、かつてのCMBの先生。すでに公立移管した学校に転勤しましたが、先住民への教育方法・姿勢を学ぶため、CMBの教師夏季研修に参加していました。（5月訪問時撮影）

研修欠席の教師を加え、CMB4小学校の教師数は、校長、経理担当を含め20名。

この二人を除く18名の教師給与平均は、月額2,300ペソ（公立学校初任給は6,000ペソ）。今年度は新潟県のふれあい基金助成を受けて、合計32,400円、一人当たり、年額約4,000ペソ（約18,000円）程度ボーナスとして支給されるはずですが。

次年度以降もこの助成を受けられるかは未定のため、No. 8でお知らせしましたように、会員の笠井さんのご協力をいただくことになりました。安い給与でピラーンの子どもたちのため献身的に働く教師たちの大きな励みになることと、ご協力に心より感謝しております。